

鎌倉 ハートナース



第47号 平成20年(2008年)6月発行(季刊)

鎌倉市市民活動センター広報紙

目 次

センター設立10周年記念行事	P 2
記 念 講 演	P 3
かまくら市民活動の日フェスティバル	P 4
ミニコラム・ペイドワーク研究	P 7

利用登録団体PR・イベント紹介	P 8
NPOセンター運営会議総会	P 9
理事長挨拶・部会紹介	P 10
センターからのお知らせ	P 12



第10回 かまくら市民活動の日フェスティバル 閉幕

自立した鎌倉市民活動の底力発揮！

フェスティバル報告

第10回かまくら市民活動の日フェスティバルが盛況のうちに閉幕しました。参加団体の皆様、来場の皆様、お疲れさまでした！
はじめての鎌倉開催、6日間の会期、さらにギャラリー空間という初めてづくしの取組でしたが、参加団体皆様の理解とパワーと団結力をもってこの大きな企画をやりきることができました。感謝の気持ちとともに成功を喜び合いたいと思います。

NPOセンター設立10周年記念事業実行委員会

80団体 パネル展示

●昨年の出展数45を上回る展示にしたいと「全部見せます鎌倉の市民活動」という大胆なテーマを掲げました。当初、出足が鈍かったものの、説明会開催に75団体の参加申し込みがあり、急速に会場を第三分庁舎に移しての開催となりました。参加者の意欲的な姿勢に後押しされ、説明会から本格的にスタートしたと言えます。最終的に80団体の壮大な展示となり、鎌倉のNPOの多様性と実力を示す結果となりました。アンケートにも「鎌倉の市民活動の奥深さ、分野の広さを感じた。感激した」という記述が多くありました。

オープンスペース デモコーナー

●ギャラリーの仕切のないオープンなスペースを生かし、気楽にのぞける企画を募集しました。音響、照明、広さ等、実施して初めて会場のイメージがつかめたというのが正直なところ。当初のスペースでは足りず、二部屋をフルに使用したため展示に影響がありましたが、団体のご理解の上、20団体22企画が実現しました。公開討論会、講演、相談会等工夫を凝らした企画がならびました。●デモコーナーでは、連日の名刺づくりやボランティアグループの販売等賑わいをみせました。1階に比べ、地下での販売は難しさがありましたが、地下に人を招き入れたいという実行委員会の思いに当該団体が応えた形になりました。

ホール

6月24日は、講演会の会場設営のため朝からホールを押さえていました。下見したメンバーの「午前中使わないのはもったいない」の一言で、ホール企画が実現しました。演奏や講演等、ホールを使い慣れている団体の主体的な参加により、ユニークな催しになったと言えます。

はじめての会場で、戸惑いや問題もありましたが、団体の智慧と力量で、のりきることができました。自立した鎌倉NPOの集合体だからこそ成功であったと確信しています。

この経験と交流を大切に、次につなげていきましょう。

アンケート 176通 詳細はHPで

鎌倉会場上々人気

延べ来場数3000人、
通りがかりの来館も…

◆催しを知ったのは？

知人51 広報40 チラシ29 通りがかり24
HP18 ポスター13 タウン誌4 他12

◆「鎌倉市NPOセンター」を 知っている117 知らない39

◆市民活動に参加していますか？ 参加している78 していない56

◆年代

30代以下15 40代17 50代15
60代63 70代43 80代以上7

◆住所

鎌倉市内140
市外24（横浜市10 逗子市6 他）



堀田力氏
弁護士 財さわやか福祉財団理事長

「市民がつくるみんなの町」

NPOセンター設立10周年記念講演

去る5月24日（土）、鎌倉生涯学習センターホールにおいて堀田力さんをお迎えし、NPOセンター設立10周年記念講演会が開催されました。記念式典に引き続いての講演に、市民約220名が参加しました。講演内容の一端をご紹介します。



「堀田力さんは、ご存知のように、ロッキード事件で『カミソリ堀田』と恐れられた検事で…」という司会者の紹介を受けて、「私は検事時代から『仏の堀田』と呼ばれています」と訂正？一気に参加者の心をつかみ、講演がスタートしました。

NPOのこれからの道

鎌倉市NPOセンターが10周年を迎え、鎌倉の市民活動が非常に活発であることを前提に、これからのまちづくりへの提言ともなる指摘がありました。

これからのNPOの発展には二つあって、一つは、コミュニティビジネスと言われるもので、もっと事業性をすすめること。例えば病院も世界的に見ればNPOと言え、利益が目的ではないが、行政や企業がやっているのと変わらないような事業を展開していく道です。もう一つは、その逆の方向で、もっと地域の生活レベルに入り、市民的にNPO的に地域と関わりをもっていく道です。

このNPO発展の二つの道のうち、堀田さんは後者について話しをすすめられました。

NPOと地域活動はちょっと違う

地域活動との関わりを進める上で、まず、NPOと地域活動との違いについて説明されました。NPOは、好きな分野があって、例えば、環境に興味がある人が「この指とまれ」ということで集まります。一方、地域のボランティア活動は、ちょっと違う。好きな人も嫌いな人もどうでもいい人も、そして、こまりものの人もあるなかで地域で助け合っていくことだと言います。

困った時「助けて」と言えますか？！

NPOで活動している人に「あなたは地域で困ったときに助けてと言えますか？」と聞くと、自身は自立していて助けてあげる方だから、なんてことを聞くのだろうとげげんな顔をされるそうです。

地域活動では、助けたり助けられたりしていろいろな人と知り合いになる。NPO活動をしながら自分の地域をあたたくすることが大切だと強調されました。これには仕掛けが必要とつけ加えられ、「地域通貨」の話題になりました。

地域通貨は頼みやすくする道具

地域通貨とは時間通貨とも言い、時間単位でお金を発行するわけですが、勿論本物のお金ではなく、例えば千葉県では「ピーナッツ」、富山県ではドルをもじって「ドラー」という単位だとか。先ずは人にしてあげられることを登録するそうで、「留守番ができる」「赤ん坊の世話ができる」「子どもに算数を教える」等々。「ただし、教えるなら算数の苦手な人がいいですよ。子どもが計算できたときに『すごいねえ』と言ってあげられるでしょ」という話に会場から笑いがおきました。そして、「誰でも20個位はできることがあるはずだから手帳に書いておくといいですよ」という言葉に思わず自分に何ができるか思い浮かべた人も多かったのではないのでしょうか。

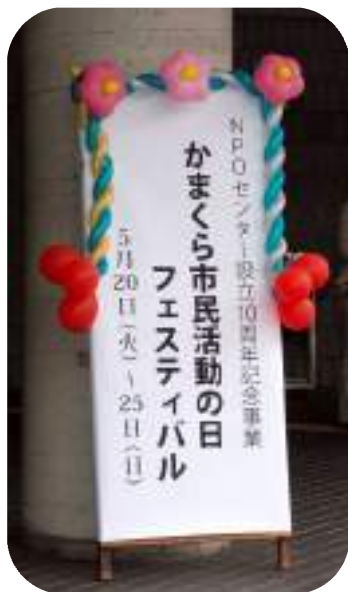
地域通貨はお互いに頼みやすくする道具。困ったときに気軽に「助けて」と言い合える関係は優しい地域のバロメーターかもしれないとお話を聞いて思いました。鎌倉のNPOが地域にどのように関わりをもっていくのか、大きな宿題をいただいた記念講演となりました。

(文責 一木)



少い出残人話な自
しけ来つのをこ分元
がるるて役何とで気
んと備いにつで出で
ば思かます・たす来歩
りまし事・つ・るたけ
（感想よう）ましたを笑こと・粗らて自
う。をいいはと・田本自分
もしが少な私生にの幸事
うてらしもおせが

鎌倉市民活動センター設立10周年



平成 20 年
5 月 20 日～25 日
鎌倉生涯学習センター



(開会セレモニー)



(太鼓実演)



初夏らしい陽気に恵まれた5月22日(木)、当会の「脳卒中後の言語障害」相談コーナーを開催しました。NPOセンターの暖かいご支援の下、実質的な相談は2件という結果でしたが、他の参加団体の方々も訪ねて来てくださり、「失語症」や「言語聴覚士」というものに少しでも興味を持って頂くきっかけになったのでは、と思っています。今回は当会も初めてのことで、事前の宣伝・チラシの準備不足や、平日開催だったこと等が集客不足の反省点として残りましたが、フェスティバル参加の皆さんから元気も頂きました。是非また次の機会につなげたいと思います。(湘南失語症者を支援する会 大原麻美)



(網戸の張り替)



(手作り品販売)



(「10周年記念NPO」立ち上げ隊)

初めて本物の綿を手にとりました。ふんわり柔らかな感触は、なんだか久しぶり。「綿くり」という優しい響きの言葉も初めてで、何もかも新鮮!木製の小さな道具をゆっくりまわして綿と実を分けていく手作業をほんの5分間もしたでしょうか。気持ちがゆったりとしてきました。

昔の人の知恵とそこに流れる時間と空間を思いました。今を生きる子どもたち、そして大人たちにも、こんな静かで暖かな時を過して欲しいと思いました。(渡邊久美子)



(綿くり体験)

鎌倉に住んでいる外国の方たちを交え『地球人感覚で鎌倉の未来を!』をテーマに座談会を開催。「鎌倉市場」を立ち上げた。

この4月に市民活動課にきて、あっという間にこの「かまくら市民活動の日フェスティバル」を迎えました。そこで感じたのは、市民活動団体のみなさんの熱気でした。個人的には、もっとじっくり各団体のイベント等も見たいな、と残念に感じています。この10周年という節目を越え、さらに20年、50年と続くためにもみなさんの活動が活発に続くことを願い、またそれをお手伝いできるよう勉強したいと思います。(市民活動課 松本幸恵)

第10回かまくら市民活動の日フェスティバル



(パネル展示)



(記念式典)



24 日に、滑川交差点付近にたまった飛び砂を砂浜に戻そう!という活動に参加しました。崩せそうもないと思われた砂山の下からマンホールの蓋も顔を出し、地面を平らにすることができませんでした。総勢 50 名で約 50 トンの砂を海岸に戻した計算になるそうです。ボランティア力を感じた 1 時間でした。

(石田朝)



日本語 COSMOS に在籍する、日本語学習者による座談会「日本のここがわからない!？」に外国籍の方々と、ボランティアの日本語指導者 30 名余りが参加しました。「日本には大家族はないの? お年寄りが重たい荷物を持って買い物をするのは大変そう」「女子高校生のスカートはなぜあんなに短いの?」「何でも印鑑を押すけど、サインの方が安全では?」「21 世紀なのに、なぜ女子大学があるの?」などなど、日頃の「不思議」をぶつけました。日本社会の諸問題に、あっと気付かされる視点がいっぱいの時間でした。(楳本春子)



(英語で紙芝居)



リレートークの様子

(鎌倉のみどりの環境保全活動を行っている 6 団体の参加によりにより開催されました)



(サリーの着付け体験)

「鎌倉歩け歩け協会」と協働で 2 日間、足型測定会を実施し、約 100 名の方の測定と靴のアドバイスをしました。鎌倉という土地柄か、皆さん非常に好奇心旺盛で、研究熱心です。自分の足の違いを知って、大変感激されていました。長年の生活習慣などで、身体のどこかに不具合を感じる年齢ですが、少しでも足や健康に良い靴を履きたいという想いを感じました。

(ミズノ株式会社 富士本彰)



10年の歩み

鎌倉市民活動センター設立10周年

	月	出 来 事	登録団体数	利用人数
平成 10 年	5	NPOセンター鎌倉・NPOセンター大船、同時オープン 「ハードは行政、ソフトは市民」の役割分担という全国初の「公設市民運営」としてスタート 「鎌倉市市民活動センター運営会議」が条例により運営受託	46 団体	
	12	特定非営利活動促進法 施行	146 団体	7122 名
平成 11 年	3	第 1 回「利用登録団体懇話会」開催(その後、毎年 2 回開催)		
	5	第 1 回「かまくら市民活動の日フェスティバル」開催 5 月 1 日を「かまくら市民活動の日」と名づけ、毎年開催		
	7	鎌倉市市民活動センター運営会議が特定非営利活動法人取得 理事長に藤井経三郎氏就任		
	12	第 1 回「全員会議」開催(その後、毎年 2～3 回開催)	187 団体	10253 名
平成 12 年	12	鎌倉市民活動白書『風と潮流』出版	190 団体	11303 名
平成 13 年	1	「NPO支援かまくらファンド」創設 市民が市民を支えるシステムをつくる		
	2	「NPO国際シンポジウム」開催 サンフランシスコよりジャン・マサオカ氏を招く	236 団体	12877 名
平成 14 年	3	鎌倉市におけるNPOと行政との協働について市長へ提言		
	4	NPOと行政職員による協働推進研究会発足		
	6	理事長に橋爪幸臣氏就任	257 団体	11796 名
平成 15 年	3	ガイドライン「NPOと市が共に汗する仕組みづくり」まとめる	272 団体	12911 名
平成 16 年		「NPOと市が共に汗する仕組みづくりへ —システム「協働事業の循環」最終報告」作成を進める	293 団体	13492 名
平成 17 年	7	指定管理者制度導入		
	11	「NPO法人鎌倉市市民活動センター運営会議」が指定管理者として選ばれる	297 団体	15501 名
平成 18 年	4	指定管理者制度開始 鎌倉市と協働による「鎌倉団塊プロジェクト実行委員会」を立ち上げる		
	5	理事長に岡野正彦氏就任		
	9	県教育委員会との連携により「高校生ボランティア エアポート事業」開始	321 団体	18292 名
平成 19 年	8	NPO団体と行政との協働事業開始	331 団体	20613 名
平成 20 年	5	NPOセンター設立 10 周年記念事業開始	336 団体(4 月 30 日現在)	

祝う会

NPOセンター設立 10 周年記念式典、記念講演に引き続き、祝う会が行われました。参加者は 70 名。実行委員長挨拶で始まり、司会者がインタビューするという形で進みました。

創成期の理事長、事務局長にはじまり、市民生活課の担当相沢部長、5 年前に国分寺市役所から一時期 NPO の担当としていらした内藤達也氏よりお祝いの言葉をいただきました。10 年前は市民活動といえば、ほとんどが女性でしたが、今日は男性のほうが多く見受けられ、世の移ろいを感じるとの感想が印象的でした。また、NPO センターの開設時は今のような事務局はなく、2 年間は NPO センター開設準備会議に係ったメンバーが交代で当番をし、センターを運営していました。その頃、利用者のニーズを調べるため、夜 9 時まで鎌倉のセンターを試しに開いていたことがあり、場所柄とても寂しくて、怖かったと 10 年前を振り返っていました。

祝う会は新旧メンバーの交流会のようになり賑やかに終わりました。

(齋藤博子)



ミニコラム

「レヴィン文化財プロジェクト」

5月11日、わが故郷(千葉県香取郡東庄町)は熱く燃えた。この日は生憎の雨模様だったが、主催者の心配をよそに、東庄町公民館大ホールで開催された「盧佳世ライブ in 東庄 vol.3～レヴィンとヒデクニからの伝言～」には町民が続々と詰め掛けた。大ホールの収容能力は400席だが、開演前に早々と満席になった。東庄町の人口は約17,000人。この人口に対してコンサート入場者数400人は、大変大きな数字だ。入場者以外にスタッフが約50人。「熱く燃えた」という表現が誇張ではないことを理解してもらえと思う。

レヴィンは2003年5月に交通事故により26歳の若さで亡くなった同郷の無名の詩人、高木昌宣さんのハンドルネームだ。高木さんは生前、ハンドルネームで多くの詩やコラムをホームページに遺していた。彼の死後、このことを知った遺族からわたしに自費出版の協力要請があった。レヴィンの遺作に触れたとき、みずみずしくてかつ優しい素直な表現力とメッセージ性の強さに一種の衝撃を受けた。遺作には、日本人が失ってはいけない普遍的な価値である他者へのいたわりと思いやりが、ぎっしりと詰まっていた。

遺作は1年がかりで詩集「レヴィンの系譜」としてこの世に蘇った。詩集の誕生は思わぬ展開を生んだ。この詩集に感銘を受けた知人の歌手、盧佳世さんが曲を作り、歌うようになった。わたしは故郷の皆さんに、「レヴィンの系譜」を故郷の文化財と位置付け、東庄町の活性化に向けた精神的基盤としてはどうかという「レヴィン文化財プロジェクト」の提案をした。この提案を受け06年5月、故郷再生と交通事故撲滅をテーマに掲げた「レヴィン追悼コンサートin東庄」が、東庄町公民館大ホールで開催された。

定年を目前にした04年、わたしはセカンドライフの一つの選択肢として、長年の会社人生で培ってきたノウハウを故郷や地域の活性化のために使ってみてはどうかと考え、建長寺で第1回団塊サミット「団塊世代よ、帰りなん、いざ故郷へ！」を開催した。「レヴィン文化財プロジェクト」はこの呼びかけの実践であり、わたしの故郷デビューでもある。今年は故郷デビュー3周年。レヴィンがわたしを故郷に導いてくれた。(北鎌倉湧水ネットワーク代表 野口 稔)

ペイドワーク研究

将来にむけて今“市民活動”はひとつの大きな流れに乗っている。それは活動から事業へとという方向だ。「事業」ということは、目的のために経営するということで、労働には報酬を払い、収益をあげて事業を高めていくことを目指す。現在、各地で「ペイドワーク」、つまり無償奉仕ではなく有償の市民活動についてのさまざまな研究会が立ち上げられ、活発に意見交換されている。3月に行われた「働く場としてのNPOフォーラム」で発表した4団体を紹介し、川崎、横浜、藤沢の代表的な事業を紹介したい。(石田人巳)

●川崎市民石けんプラント・・・・・・・・・・

廃油から石けんを製造する工場。製品は環境学習を重視する川崎市内の小学校など114校中85校で使用されている。プラントの運営は補助金が4割、石けん売り上げが6割。社員は障害者の方が21名。NPOスタッフが10名。

●サイドワークネキスト・・・・・・・・・・

福祉タクシー会社を経営。ユニバーサル車両(回転イス、リフトなど補助具を装備)を使用し、障害者や高齢者の移送サービスを展開。乗務員30名と事務スタッフ3名。経営者は阪神淡路大震災をきっかけに福祉活動に興味を持ったという。売上高2億2千万円のうち約15%が福祉タクシー。「これだけでは儲かりません」とのこと。

●カタリバ・・・・・・・・・・(かながわボランティア活動推進基金21 平成18年度対象事業)

大学生が高校に出向いていって高校生に伝えたいことを語り、進路設計の支援をする“カタリバ”を運営している。正職員3名、パート2名、ボランティア登録者(3500名)の中から学生職員16名で構成。

●グループ藤・・・・・・・・・・

複合型福祉マンション経営。15人で立ち上げて1年でスタッフ30人になった。「藤沢で安心して死ねる」ということが経営理念。都市再生機構と銀行が融資をしてくれ、3億3千万という資金源を確保でき実現した。

団体PR

鎌倉検定市民の会

初めまして！鎌倉検定市民の会です。鎌倉検定？皆様にとっては聞き慣れない言葉でしょうか？「鎌倉検定」とは、鎌倉の歴史・文化・風景・まちづくり・経済・政治を問題にして鎌倉市民や全国の鎌倉ファンに受検してもらうご当地検定のことです。

私達の会は、当初「鎌倉検定の実現を目指す会」として3年前、有志で立ち上げました。当時、京都検定が全国的に人気を博しており、ここ鎌倉でもご当地検定を実施し、鎌倉ファンを全国に増やそう！と私達は市民の立場から鎌倉検定の実現の声をあげました。その後、多くの関係機関の皆様のご協力を得、鎌倉商工会議所主催で検定が実施され、私達の会も名称を「鎌倉検定市民の会」と改め、新たな活動を始めています。

今年で第二回目となる鎌倉検定の事前講習として、「史跡巡り実地講習ハイキング」を開催しました(4/20 実施)。受検予定のない方も多く参加され、参加者の多くの方は、熱心に講師の説明に耳を傾け、メモをとったり、質問をしたり、とても真剣に取り組んでいらっしゃいました。私達はこの史跡巡りハイキングを通じて、多くの熱心な鎌倉ファンの存在を実感し、当会の使命を再確認しました。鎌倉は「武家の古都」として世界遺産登録を目指しています。そのためにも、今後も「鎌倉ファンを多く作ること」「市民に鎌倉の再発見してもらい、さらに認識を深めてもらうこと」を二大目標として、市内の観光等に係わる NPO 組織や関心の高い市民の方々にも協力を求め、鎌倉検定の普及を目指していきます。(代表 大津理津子)



イベント情報

腰越・神戸川(ごうどがわ)の清掃

腰越津の森・広町に湧き、津村を潤し、腰越漁港に流れ出る腰越地区のシンボル神戸川(ごうどがわ)。その神戸川の清掃を行います。

日 時：7月20日(日)、8月17日(日)、9月28日(日)
午前10時集合 雨天中止
集合場所：腰越行政センター広場
持ち物：軍手、長靴、手ぬぐい、帽子
主催団体：腰越まちづくり市民懇話会
<http://www.koshigoe-machikon.halfmoon.jp/>
問合せ先：TEL/FAX 0467-32-1478(市川)

基金21・平成20年度募集説明会

「かながわボランティア活動推進基金21事業」の説明会及び応募相談会を実施します。

日 時：7月18日(金)14時～17時
会 場：NPOセンター鎌倉 第1会議室
受付方法：説明会は入場自由
応募相談会は、事前予約が必要(下記の電話)
問合せ先：TEL 045-312-1121(内線2832)
FAX 045-312-4810
E-mail: kikin@kvsc.pref.kanagawa.jp

NPOセンターフォーラム

「鎌倉で安心して出産」

— 医師会立産院開設 —

日 時：8月17日(日)13時30分～15時30分
会 場：鎌倉市福祉センター
参加費：無料(申し込みが必要)
講師：細谷 明美氏(鎌倉市医師会会長) 他
主催団体：鎌倉市市民活動センター運営会議
問合せ先：TEL 0467-23-3000(内線 2655)
申し込み：TEL/FAX 0467-60-4555
E-mail: npo@chive.ocn.ne.jp

※申し込み、問い合わせは7月1日から開始いたします。
※託児は無料です。必要な場合は予約してください。



平成20年度 総会開催



5月17日(土)、当運営会議の第9回総会がNPOセンター大船で開催されました。

平成19年度の事業報告、決算報告の承認、平成20年度の事業計画案、予算案が審議され承認されました。また、定款の一部改正、任期満了に伴う新役員の選出が行われ、新年度がスタートしました。

報告の中で目を引いたのは、NPOセンター設立以来10年を経過して、利用団体数が331団体、利用者は2万人以上と飛躍的に増加したこと、裁断機の購入や印刷機の機能アップで、支援態勢が一層充実したこと、男性の活動への参加がめざましく、最初はほとんど女性だったのが、今や男性の方が多数になったこと、若い人の利用が増えていること、連日賑わっていて場所が手狭になってきたこと、などです。

定款の改正は、広告事業を可能にするためのものです。新役員は次のとおりです。

(理事) 一木千恵子さん 岡野正彦さん
奥野晃さん 中田浩二さん
野田政夫さん

(監事) 佐藤二郎さん 吉川昇さん

なお、理事長に岡野さん、副理事長に一木さんが就任しました。

審議の中で、定款改正の手順について、また、会員の勧誘の仕方などについて意見がありました。

今年度、支援事業の充実はもとより、コーディネーターの役割の推進、また、自主事業のフェスティバルやNPOファンド事業の発展を目指し、部会、事務局が一層力を合わせ、多様なつながりを強化しつつ、活動を活性化していくこととし、目の前の「NPOセンター設立10周年記念事業」を成功させ、次の10年を市民がつくるスタートにしようと気持ちを一つにして、閉会となりました。(中島光子)



年 間 予 定

《指定管理事業》

- 6月 鎌倉パートナーズ第47号発行
- 7月 第1回利用登録団体懇話会開催
- 9月 鎌倉パートナーズ第48号発行
- 12月 鎌倉パートナーズ第49号発行
- 1月 第2回利用登録団体懇話会開催
- 3月 鎌倉パートナーズ第50号発行

<定例相談> 毎月実施

《自主事業》

- 8月 NPOセンターフォーラム開催
- 9月 第1回全員会議開催
- 11月 10周年記念誌発行
- 11月 NPO支援かまくらファンド
公開審査会実施 [11/3(月・祝)]
- 2月 第2回全員会議開催

<定例理事会> 隔月開催

<部会連絡会> 隔月開催

※従来の部会リーダーによる「連絡調整会議」の名称を「部会連絡会」と改めます。

<イヤーラウンド事業> 通年実施

<メール便取り扱い事業> 通年実施

※年間予定は、既に決定されている事業を掲載しました。
※講演会、フォーラム、研修会、講習会を部会ごとに企画・開催します。

運営会議情報

『 新 理 事 長 挨 拶 』

二期目の理事長をお引き受けいたしました。理事長として三年目になります。会員・賛助団体・スタッフ皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。一期目は、「理事会・部会活動の積極的な活動の強化」「会員の増強」に取り組みました。その結果、センター利用登録団体数は増加し、かまくら市民活動の日フェスティバルの成功にもつながりました。正会員数は若干減少しましたが、個人賛助会員・団体賛助会員は増加し、全体としては基盤が強化されたと思います。

今期は、平成20年5月17日開催の第9回通常総会で承認された事業計画を実施することが大きな目的ですが、引き続き鎌倉市の課題解決に向けて取り組む市民活動を支援し、NPOを繋いでいく役目を進めることにより、鎌倉市の市民活動が、世代や分野を越えた広がりをもつよう働きかけます。「本来の支援事業」「鎌倉市との協働事業」「運営会議ならではの自主事業」を展開していくには、内部の組織充実を図る必要があります。会員相互のコミュニケーションを強化するのは当然ですが、鎌倉でのスタッフを二人体制にし、非常勤職員制度を導入し、責任体制を明確化しました。今後予測されるサービスを含めた業務拡大については、その都度問題解決をはかってまいります。

自主事業については、プロジェクト毎に損益事業計画を明確にし、有償ボランティアを導入、運営会議ならではの繋がりを重視して事業展開を図ります。収益事業が拡大しますと、独善的・排他的・隠蔽行為が行われがちですが、十分に戒め、開示する習性を常に組織の中に求めています。

理事会は、方針を定めるのに重大な会議です。定期的に、又必要に応じ臨時開催いたします。理事自ら率先して部活動に参加し、運営会議の活性化に取り組みます。

スタッフ部門は事務局長中心に運営管理し、サービス強化、業務拡大に備えます。そして「みんなで汗する」をモットーに楽しく、愉快地、和やかなうちにも、仕事に対する厳しさをもちながら、業務展開をして参りたいと覚悟を新たにしています。10周年記念事業で見せた実行委員会を中心とした“運営会議パワー”は、我が鎌倉市市民活動センター運営会議の財産です。皆様方のご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 理事長 岡野正彦

部 会

紹 介

組織研究部会

定款、規約の改正点、補足点の抽出作業を行います。

また、専門部会や全員会議の位置づけについても検討します。

協働事業推進部会

NPO法人の設立数の増加やNPO支援施策の展開とともにNPOと行政の協働の取組みは全国各地に広がっています。

協働事業という名の下に、行政からNPOへの委託、補助や助成・イベント等の共催など協働の形も様々です。

鎌倉市も協働事業推進ということで行政とNPOセンター運営会議との間で、平成14年度より話し合いを重ねてきました。

その結果、平成19年度より協働事業の募集が始まり20年度事業としてスタートしています。

20年度は5月に募集を行い、5団体から応募がありました。6月21日に各団体からのプレゼンテーションがあり、NPOと行政の協働事業がスタートします。

NPOと行政が対等の立場で新しい公共サービスが創りだせたらと思っています。

財政部会

NPO活動においても必要なのはお金。資金がなければ志も十分達せられません。社会の幸せのために貢献したい、あるいは退職後の時間を社会活動にささげたい、そうした美しい志の市民を、私たち運営会議は少しでも支えたいと願い活動していますが、その資金を得るための活動が財政部の仕事です。

企業回りをして募金活動をしたり、その他知恵を絞って収益活動をしします。また、毎年資金を活動団体に分配するために審査会を開きます。大変面白く、自分のためにもなる活動です。ぜひ皆さんの知恵とお力をお貸しください。お待ちしております。

研修部会

研修部会では平成 20 年度も次のような活発な活動計画を立てております。

- ・フォーラム・講演会年 2 回開催
- ・会員及び登録団体の研修会支援
- ・近隣自治体の NPO センター視察及び交流会
- ・部会間協働の推進サポート

一緒に活動してみませんか。
ご応募をお待ちしています。



広報部会

市民活動に関する情報を伝達するために、「鎌倉パートナーズ」の作成、「ホームページ」の作成・更新を中心に活動している部会です。より充実した情報伝達をするために技術アップ研修会も行っています。今年度の企画として、市民活動団体向けの「ホームページ作成支援講座」「広報紙作成支援講座」を開催する予定です。

広報紙やホームページ作成に興味、関心のある方、
広報部会で一緒に活動しませんか！

正会員となり部会活動に参加くださる方は、ホームページ作成研修会に無料で参加できます。

相談部会

現在、相談部会は市民活動に関して二つの面での助言や支援を行っています。

一つは新しく市民活動を始めようとする人に対して、適当な活動組織の紹介を行うことであり、もう一つはすでに活動を行っている NPO 法人などの団体や個人に対する運営面での助言や業務上の支援活動です。

特に後者については、会計・税務、社会保険さらには経営指導などについての専門家を置いて、市民活動の実務面で役にたてるような態勢をとっています。

今後もこの方面では相談を受けるという受身の立場だけでなく、市民活動にとって有益な情報やサービスを積極的に提供できるように心掛けたいと考えています。



損益計算書から収支計算書への組み替え

Q：この欄で前に収支計算書から損益計算書を作成することが載っていたのですが、逆に、損益計算書から収支計算書を作成するにはどうすればよいですか。

A：NPO 会計ソフトを使用していれば、自動的に収支計算書は決算書として作成されますが、企業会計ソフトで NPO の帳簿管理をしている場合には、決算書類としては貸借対照表のほかに損益計算書が自動的に作成されます。これから収支計算書を作成するにはまず損益計算書に含まれている減価償却費や固定資産売却損益のような資金の収支を伴わない項目を除き、借入金の増減や固定資産の購入などの項目をそれぞれ収入金額、または支出金額に加えて繰越収支差額を算出することになります。

貸借対照表に計上される正味財産額と収支計算書の繰越収支差額との関係は、次のとおりです。

正味財産額＝繰越収支差額＋資産増加額＋負債減少額－資産減少額（減価償却費を含む）－負債減少額

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議
神奈川県鎌倉市御成町 1-8-10
鎌倉市市民活動センター（NPO センター鎌倉）内
TEL: 0467-23-3000 内線 2655 TEL/FAX: 0467-60-4555(直通)
e-mail: npo@chive.ocn.ne.jp
http://www3.ocn.ne.jp/~npo-kama/uneikaigi/uneikaigi.htm

会 員 募 集 !!

正 会 員 数 : 80 名
個人賛助会員数 : 29 名
団体賛助会員数 : 198 団体
(6 月 1 日現在)

NPO センターからのお知らせ

新収図書のお知らせ

今回は、これまでに当運営会議に寄贈された関係者の著書・冊子等(2005年以降の受贈)をご案内いたします。センターにお出での折りには、ぜひご覧下さい。会員には貸し出しもします。
(紙面の都合でタイトルの一部を省略したものもあります)

— 鎌倉・大船の両センターで所蔵 —

『認知症介護体験からのメッセージ』かまくらりんどうの会 2005. 9

『べる通信合本1～50号』鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会 2007. 3

『講演・議事録集』第1～4分冊 熟年の底力研究会 2007. 10

『趣味の勧め』瀬野 稔(鎌倉市シルバー囲碁連盟) 2008. 5

— 鎌倉センター所蔵 —

『鎌倉を散策して詩う』佐藤敏彦(鎌倉鹿鳴会世話人) 2006. 8

『國寶史蹟』第51～54号 國寶史蹟研究会 2005～2007. 12

『「ベル」15周年記念号』鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会 2007. 2

『「ゆう」創立20周年記念誌』グループ ゆう 2007. 3

『おすすめレシピ 208』鎌倉ベルの会 2005. 2

— 大船センター所蔵 —

『東海道藤沢宿 助郷会所日記』玉縄の古文書を読む会編 2004.12

事務局刷新

光陰矢の如し。過ぎてしまうと月日の経つのは早いものです。NPOセンターも10年を経過しました。

公設市民運営「ハードは行政・ソフトは市民」の名のもと、全国初の試みでスタートしました。現在は指定管理者になっていますが、初心は息づいています。

鎌倉の市民活動の歴史は古く、人々の思いが風と潮流となって今でも綿々と続いており、継続することの大変さをひしひしと感じながらセンター運営を行っています。

平成10年、40団体でスタートしましたが、現在332団体が利用登録をし、利用者数も年間2万人を超えました。

多種多様な活動団体が、それぞれに鎌倉のまちの課題解決に力を発揮しています。

センターも市民活動支援に力を注いでいけるよう、新しいスタッフを迎えました。板垣裕見子、柴田かおり、平塚優の3名です。今までのスタッフもフレッシュな3名に刺激を受け、新たな気持ちで利用者の皆様をお迎えしています。

活動スペースとしては狭い場所ですが、内容は濃いものを目指し、なお一層の市民活動支援を続けます。

利用者の皆様共々、みんなで鎌倉市民活動センターを育てていきましょう。ご協力、お願いします。

(事務局長 渡邊公子)

第1回利用登録団体懇話会のお知らせ

平成20年度第1回利用登録団体懇話会を次のとおり開催いたします。ぜひご参加ください。

日 時：平成20年7月19日(土)

15:00～18:00

会 場：NPO センター大船

内 容：団体活動紹介、意見交換
交流懇親会



平成20年6月1日現在 **利用登録団体数:339団体**

お願い 利用登録団体の登録内容(連絡先・代表者・活動内容等)が変更された場合は速やかにご連絡ください。

発行：鎌倉市市民活動センター

編集：特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議

<http://www3.ocn.ne.jp/~npo-kama/>

NPOセンター鎌倉

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

TEL: 0467-23-3000 内線 2655

TEL/FAX: 0467-60-4555(直通)

e-mail: npo@chive.ocn.ne.jp



NPOセンター大船

〒247-0061 鎌倉市台 1-2-25

(たまなわ交流センター 1階)

TEL/FAX: 0467-42-0345

e-mail: npo2@abelia.ocn.ne.jp